

滋賀県有害外来魚ゼロ作戦事業について

吉岡 剛（滋賀県農政水産部水産課）

【事業の背景】

琵琶湖とその周辺では、昭和40年頃にブルーギル、昭和49年にオオクチバスが発見された。これらの外来魚は在来魚やその稚魚などを捕食するため、その異常繁殖に伴って、琵琶湖漁業のみならず琵琶湖の生態系にも深刻な影響を与えている。県では昭和60年度から外来魚駆除対策を開始し、現在も引き続き積極的な駆除対策や繁殖抑制対策に取り組んでいる。

【事業の内容】

外来魚駆除促進対策事業

エリ、刺網（小糸網）、柵網など、従来は在来魚を目的とした漁法を利用した、外来魚の捕獲駆除に補助を行っている。

外来魚繁殖抑制対策事業

オオクチバス稚魚のタモ網すくい

オオクチバスの稚魚は、体長20mmに達するまでは産卵床近くの水面付近を群れになって泳ぐ習性がある。それを利用して、オオクチバスの稚魚をタモ網ですくい獲る漁法（滋賀県水産試験場開発）。在来魚の稚魚を捕食する前にオオクチバスを駆除できるため、駆除効果は非常に高い。

ビームトロール網（南湖）

小型の曳網を水草の中でも曳けるようにビーム（梁）を取り付けた漁法（滋賀県水産試験場開発）。オオクチバスやブルーギルの当歳魚が捕獲でき、産卵する前の個体を駆除できる。

沖曳き網（北湖）

従来は、ホンモロコヤアユなどを漁獲するための曳網を漁船に取り付けた巻き揚げ機で曳く漁法。オオクチバスやブルーギルの当歳魚が捕獲でき、産卵する前の個体を効果的に駆除できる。

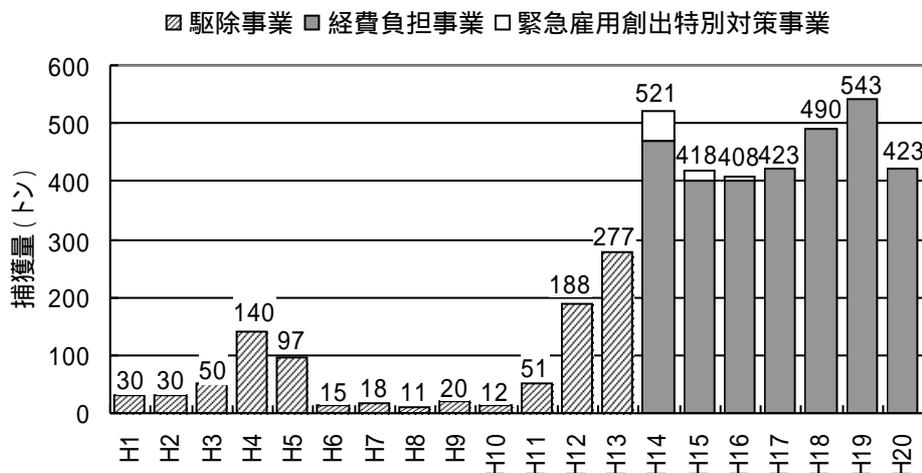


図1．外来魚捕獲量の推移